

科目責任者 越前 宏俊（薬物治療学研究室）

■ 教育目的

12月中旬～1月中旬においては、他コースが担当する特別講義・演習に合同で参加することによって、専門系科目における学習到達度の不十分な分野の復習、SGDを通じた問題解決能力の養成を図る。1月中旬～3月下旬にかけては、他コース特別講演会の他に、英語会話、文章表現、心理学、経済学、情報処理演習、生薬学、史学、社会学、倫理学などのリベラルアーツ・教養系特別講義を受けることによって、より広い知識と視野を身につけ、よりよく考え表現する態度を涵養する。【卒業認定・学位授与の方針：YD-①～⑥】

■ 学習到達目標

1. 研究コース B 以外の各コース担当の特別講義・演習に参加し、それぞれのコースの特徴を説明できる。
2. 医療・倫理関連の時事問題事例を取り上げて解説・発表できる (SGD 及び PBL に基づく研究発表)。
3. 古今東西の事例から繁栄の経済学を学び説明できる。
4. 社会で役立つ文章表現を使用できる。
5. 病と癒しの歴史について紹介できる。
6. 交流分析 (TA) など心理学技法を使用できる。
7. 旅行医学の視点から自然の驚異と薬学について説明できる。
8. 英語会話を高め、海外の人と交流できるようになる。
9. 薬学に関わる情報処理技術を使用できる。
10. 薬学関連の知識技能に加え、身につけた一般教養を利用して発表できる。

■ 準備学習（予習・復習）

予習：事前に提示された科目内容の予備学習 (20 分)。

復習：該当日の学習内容の確認と理解不足部分の補正により知識を確実なものとする (30 分以上)。

■ 授業内容

No.	項目	授業内容	SBO コード
1～30	講義・演習 (12月～1月中旬、但し、31年度以降は11月～1月中旬予定)	研究コース B 以外の各コース担当の特別講義・演習 (4 単位分)	A(1)-1-1～(3)-5-2 C18(1)-1-1～-2-7(2)- 1-1～-3-6
31～90	講義・演習 (1月中旬～3月下旬)	リベラルアーツ関連科目などの講義・演習 (5 単位分)	A(1)-1-1～(3)-5-2
91～ 105	演習	配属研究室での演習 (1 単位分)	

■ 授業分担者

川北 晃司 (副責任者)、7つの特別コース担当教員、外部講師

■ 課題（レポート、試験等）のフィードバック及び成績評価方法

課題のフィードバック：個別に連絡して意見交換、指導する場合がある。

成績評価方法：出席、レポートおよび発表等で総合的に評価する。

■ 教科書

授業内容に応じて担当教員が指定することがある。

■ その他

外部実習では健康上の理由や慶事などのように特別な理由がない場合には欠席を認められていないことに鑑みて、本コースでは全講義（演習を含む）のうち出席 80%以上を単位取得要件としているので注意すること。